

新たな劇場整備の検討状況について(中間報告)

資料 4

政策・総務・財政委員会
平成 31 年 2 月 14 日
政 策 局

I 現状

1 横浜市の取組

本市では、全国各都市に先駆けて、文化芸術の創造性を生かし、「文化芸術振興」や「経済振興」といったソフト施策と「まちづくり」などのハード施策に一体的に取組む「文化芸術創造都市」の取組を進めてきました。

また、横浜トリエンナーレ、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA、横浜音祭りを継続的に実施しています。事業数、来場者数も増加しており、世界水準のオリジナルな文化芸術の発信、賑わいづくりと経済の活性化につながっているとともに、市民協働と子どもをはじめとした次世代育成にも寄与しています。

2 市内文化施設の整備状況

本市では、文化施設の整備が進んできており、文化芸術の推進に貢献しています。

(1) 文化施設

本市では、地域の文化芸術活動の拠点となる区民文化センター※の整備を進めており、身近な場における鑑賞、創作、発表などの文化活動の推進に貢献しています。

また、様々な文化芸術の鑑賞や文化活動振興のため、関内ホールや横浜みなとみらいホール、伝統芸能等を楽しめる能楽堂やにぎわい座などのほか、県有施設として神奈川県民ホールや神奈川芸術劇場 KAAT などが整備され、豊かな文化芸術に触れられる場

※整備済み 10 区、事業中 3 区

(2) 創造界限拠点

個性豊かなアーティストや創造活動の支援のため、横浜の歴史的建築物等の活用などにより、YCC ヨコハマ創造都市センター、象の鼻テラス、THE BAYS など、創造界限拠点を整備し、運営しています。

(3) 民間企業による文化施設

民間企業によるホールなどの集積が進んでおり、横浜の文化活動の一翼を担っています。特に、みなとみらい地区では、ホールとともに、大規模アリーナ施設※の整備が計画されており、まちの賑わいに大きく貢献することが期待されています。

※びあ(株) (10,000 人ホール)、(株)ケン・コーポレーション (20,000 人ホール)

3 文化芸術に関わる意識

(1) 自由に過ごせる時間(28 年度横浜市民意識調査 【別紙参考資料-参考 2】)

自由に過ごせる時間が「十分にある」、「多少はある」と感じている人は、全体の 8 割近くを占め、特に、「十分にある」は、50 歳代以上、また 20 歳代が多くなっています。

(2) 生活の行動(30 年度横浜市民意識調査 【同一参考 3】)

生活の行動として、「観劇やコンサートに行く」頻度は、36%の人が年に 1 回～数回となっています。逆に行かないという人は、58%となっています。また、「観劇やコンサートに行く」人のうち、54%が都内へ行くとしており、他の行動(映画館 6.7%、スポーツ 3.8%、習い事 10.6%が都内)と比べて高くなっています。

(3) 文化芸術の鑑賞経験(28 年度文化に関する世論調査(内閣府) 【同一参考 4】)

1 年間でホール、劇場、映画館、美術館などで直接鑑賞したことがある人は約 6 割、音楽(オペラ、オーケストラ、ポップスなど)を鑑賞した人は 25%となっています。

(4) 子どもの文化芸術体験(28 年度文化に関する世論調査(内閣府) 【同一参考 5】)

文化芸術の体験の方法として期待されるのが、学校での鑑賞体験、劇場・ホールでの体験の順となっています。期待される効果としては、国や地域に対する愛着、美しさなどへの感性、他国の人々や文化への関心の順となっています。

4 「劇場、音楽堂の活性化に関する法律」(劇場法)に基づく劇場の役割

劇場、音楽堂の活性化に関する法律(平成 24 年 6 月施行)の前文において、劇場等の役割が記されています。

(1) 創造と発信の場

劇場は、文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり、人々が集い、人々に感動と希望をもたらす、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である。

(2) 心豊かな生活を実現する

個人の年齢や性別、個人を取り巻く社会状況等にかかわらず、すべての国民が、うるおいと誇りを感じることで心豊かな生活を実現できるための場として機能する。

(3) 地域の発展を支える

人々の共感と参加を得ることにより「新しい広場」として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待される。

(4) 国際社会の発展に寄与

国際文化交流の円滑化を図り、国際社会の発展に寄与する「世界への窓」になることが望まれる。

裏面あり

II ヒアリングなどの結果概要

1 劇場の状況

(1) 本格的な劇場の整備状況

首都圏では、本格的なオペラ・バレエ等の舞台芸術を上演するに相応しい舞台設備を有し、十分なキャパシティがある劇場はほとんどなく、実演団体から劇場不足への危機感が示されています。また、市内では、神奈川県民ホールで上演実績があります。

(2) 本格的な舞台芸術のために必要な設備

国内の本格的なオペラ・バレエ等を上演している劇場は、1,800～2,500席規模で、主舞台と袖舞台を備えた多面舞台、オーケストラピットを備えたものとなっています。

2 オペラ・バレエの状況

(1) 活動状況

わが国では、本格的なオペラ・バレエの実演団体は多くありません。一方、海外の著名な劇場に帰属している団体を招聘している事例が多くあります。

バレエ人口は、地域レベルでのバレエ教室の活動（生徒数は全国で約36万人と言われています。）などもあり、一定の規模が期待できます。オペラは、ファン層の高齢化が進んでいます。オペラ・バレエへの理解を深め、ファンを増やす創客の取組も重要です。

(2) 専門的知見の重要性

オペラ・バレエの企画・運営や舞台設備の検討には、専門的知見が欠かせず、そのようなノウハウを有する人材は限られています。早い段階から人材を確保し、劇場運営・整備の検討に知見を反映させていくことが求められています。

(3) 実演団体のニーズ

オペラ・バレエの実演団体は、劇場の選択に当たり、集客力と設備の充実さを重視しています。また、上演プログラムでは、民間企業の寄付や国からの補助金が導入されている事例が多くあります。団体は、次世代育成として、教育現場への参加などの意欲は高く、実績も増えています。

3 多面的な効果

(1) まちの活性化への貢献

劇場は、周辺施設と相まって、新たな拠点になり、まち全体の活性化に貢献している事例が多く見られます。単独施設として、劇場らしい意匠、デザインが、まちのシンボルになっています。

欧米の諸都市では、劇場は「まちの顔」であり、賑わいの中心的存在となっています。劇場が単体で存在するのではなく、全体の土地利用計画や施設配置などの中で整備されてきました。

(2) 観光・インバウンド

劇場で世界水準のオペラ・バレエの上演があれば、市民のみならず遠方からも、一定の集客が見込まれます。新たな鑑賞者に向けた横浜ならではのコンテンツを提供することにより、鑑賞者の裾野を広げることが期待されています。現段階では、オペラ・バレエ鑑賞へのインバウンドは大きくはありませんが、観光施策との連携により、体験型として誘客効果が高まる期待があります。

(3) 他劇場との連携

劇場同士の連携により、海外から招聘した実演団体の巡回ツアーなどを行っている事例があります。最近では、教育プログラム、オペラ・バレエの共同制作なども行われています。また、海外劇場との連携も、都市間交流などをきっかけに行う事例もあります。

(4) 次世代育成、社会的包摂における役割

新たな劇場でトップレベルの舞台芸術に触れる体験は、感性に響き、創造力や共感しあう心の醸成につながり、次世代を担う子どもたちの育成に大きく寄与することが期待されます。また、優れた文化芸術を様々な立場の人々が体験できるようにすることで、芸術の力が社会的課題の解決につながります。多くの公共劇場では、次世代育成、社会的包摂を新たな取組として進めています。

4 整備と運営

(1) 整備・運営手法

オペラ・バレエが上演できる劇場の多くは自治体が所有しており、整備手法は、市街地再開発事業または公共単独施工となっています。運営は、指定管理者方式が多く、自治体からの指定管理料に加え、寄付や助成、貸館収入、チケット収入により運営しています。

(2) オペラ・バレエの上演方法

劇場によって異なりますが、劇場の自主事業で誘致するケースと、劇場の貸館事業として実演団体が借りるケースがあります。現段階での全国事例では、誘致が圧倒的に多くなっています。

(3) 上演ジャンル

オペラ・バレエが上演できるいずれの劇場でも、年間の総上演実績は多くはありません。オペラ・バレエ以外の上演実績としては、クラシック系が多いですが、ジャンルは広がっています。

III 今後の検討課題

1 新たな劇場の位置づけ

活力ある文化芸術創造都市の中核としての役割を検討します。また、オペラ・バレエを中心に、集客できるコンテンツや他施設との連携、観光・インバウンドへの貢献など、横浜のプレゼンスを上げることにつながる劇場のあり方を検討します。

2 整備のあり方

アクセス、周辺施設の状況、まちづくりとの整合性など、求められる立地要件や、劇場に求められる固有の条件（主要設備など）を踏まえた建築のあり方を検討します。また、整備手法として、民間活力の活用や、運営ノウハウを反映できる方法など、幅広い視点で検討します。

3 運営のあり方

新たな劇場の目標達成に向けた運営のあり方を検討します。オペラ・バレエの上演を確実に実現し、他のジャンルの上演を想定した上での収支のあり方などを検討します。また、目標達成に貢献できる運営主体のあり方や確保についても検討します。

参考資料

【参考1: 新たな劇場整備の30年度調査概要】

(1) 調査方法

- ・本格的な劇場を有する他都市の事例調査
- ・舞台芸術・運営等に関する知見を有する有識者や実演団体、施設運営団体、整備事業者、開発事業者等へのヒアリング
- ・劇場整備に必要な空間を把握するためのボリュームスタディ

(2) 調査時期

平成30年7月～平成31年3月

【参考2: 自由に過ごせる時間（28年度横浜市民意識調査）】

問9 あなたは、普段自由に過ごせる時間がありますか。（○は1つ）

『ある（計）』は8割近く

自由に過ごせる時間については、「十分にある」（39.7%）と「多少はある」（39.4%）を合わせた『ある（計）』（79.1%）は8割近くとなっている。

図3-4-2 自由に過ごせる時間【性・年齢別】

性・年齢別	n	自由に過ごせる時間				無回答	ある(計)	ない(計)
		十分にある	多少はある	あまりない	ほとんどない			
全体 (2,194)		39.7	39.4	13.4	2.7	4.7	79.1	16.1
【性・年齢別】								
男性 (計) (1,063)		38.9	40.5	13.7	2.3	4.6	79.4	16.0
20代 (87)		36.8	39.1	13.8	4.6	5.7	75.9	18.4
30代 (149)		20.1	52.3	21.5	4.0	2.0	72.5	25.5
40代 (195)		21.5	51.8	21.0	3.1	2.6	73.3	24.1
50代 (171)		32.7	49.7	12.3	1.2	4.1	82.5	13.5
60代 (210)		40.5	38.6	14.3	2.4	4.3	79.0	16.7
70歳以上 (251)		67.3	20.3	4.0	0.4	8.0	87.6	4.4
女性 (計) (1,131)		40.4	38.5	13.1	3.2	4.9	78.9	16.3
20代 (105)		32.4	45.7	14.3	5.7	1.9	78.1	20.0
30代 (150)		23.3	42.7	24.0	8.0	2.0	66.0	32.0
40代 (202)		25.7	47.0	17.8	6.9	2.5	72.8	24.8
50代 (218)		37.6	44.5	14.7	0.9	2.3	82.1	15.6
60代 (210)		53.3	33.8	7.1	0.5	5.2	87.1	7.6
70歳以上 (246)		57.7	24.4	5.7	0.4	11.8	82.1	6.1

【参考3: 生活の行動、行動範囲(30年度横浜市民意識調査)】

(1) 行動頻度

あなたは、次のことをどのくらいの頻度でしていますか。なお、することがない項目については「しない」を選んでください。（○はそれぞれ1つ）

	ほぼ毎日	週に2~3回	週に1回	月に2~3回	月に1回	年に1回~数回	しない	無回答
映画館に行く	0.0	0.3	0.6	1.7	7.0	47.4	41.5	1.4
観劇やコンサートに行く	0.0	0.2	0.3	1.1	3.3	35.8	57.8	1.4

(2) 行動範囲

あなたは、次のことをする場合、主にどこに行きますか。（○はそれぞれ1つ。ただし、5(1)行動頻度で「しない」と回答した項目については無記入としてください）

	住まいの周辺(徒歩15分程度以内)	横浜市内	横浜市を除く神奈川県内	東京都内	それ以外の地域	無回答
映画館に行く (n=2,259)	6.8	70.3	13.8	6.7	0.9	1.5
観劇やコンサートに行く (n=2,145)	0.8	27.9	9.2	54.2	5.1	2.7

【参考4: 文化芸術の鑑賞経験(内閣府・28年度文化に関する世論調査)】

問1 あなたは、この1年間に、ホール・劇場、映画館、美術館・博物館などで文化芸術を直接鑑賞したことはありますか。この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

鑑賞したことがある(小計)	(上位4項目)
・鑑賞したことがある(小計)	59.2%
・映画(アニメを除く)	31.1%
・音楽(オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など)	24.8%
・美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など)	22.5%
・歴史的な建物や遺跡(建造物、遺跡、名勝地(庭園など)の文化財)	18.4%
・鑑賞したものはなし	40.6%

【参考5: 子どもの文化芸術体験の効果(内閣府・28年度文化に関する世論調査)】

問12 あなたは、子どもの文化芸術体験について、何が重要だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

重要だと感じる効果	(上位4項目)
・学校における公演などの鑑賞体験を充実させる	60.9%
・ホール・劇場や美術館・博物館など地域の文化施設における、子ども向けの鑑賞機会や学習機会を充実させる	42.4%
・地域の祭りなど、地域に密着した伝統的な文化体験の機会をより多く提供する	41.5%
・学校における演劇などの創作体験を充実させる	39.8%

問13 子どもの文化芸術体験について、あなたが期待する効果は何ですか。この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

期待する効果	(上位4項目)
・日本の文化を知り、国や地域に対する愛着を持つようになる	59.2%
・美しさなどへの感性が育まれる	43.0%
・他国の人々や文化への関心が高まる	39.4%
・コミュニケーション能力が高まる	38.9%

【参考6：国内の主な劇場一覧】

	施設名	開館	所有	運営	ホール席数	舞台機構等	事業手法
1	札幌文化芸術劇場hitaru	2018	札幌市	札幌芸術文化財団	劇場 クリエイティブスタジオ 2,302席 175席	舞台（劇場）：4面 オーケストラピット	・市街地再開発事業
2	新潟市民芸術文化会館 （りゅーとびあ）	1998	新潟市	新潟市芸術文化振興財団	劇場 コンサートホール 能楽堂 903席 2,000席 387席	舞台（劇場）：3面 オーケストラピット 仮設本花道	・公共施工
3	まつもと市民芸術館	2004	松本市	松本市芸術文化振興財団	主ホール 小ホール 1,800席 288席	舞台：副舞台 オーケストラピット	・公共施工
4	彩の国さいたま芸術劇場	1994	埼玉県	埼玉県芸術文化振興財団	大ホール 小ホール 音楽ホール 776席 346席 604席	舞台（大ホール）：4面 オーケストラピット	・公共施工
5	東京文化会館	1961	東京都	東京都歴史文化財団	大ホール 小ホール 2,317席 653席	舞台（大ホール）：2面 オーケストラピット	・公共施工
6	神奈川県立県民ホール	1975	神奈川県	神奈川芸術文化財団	大ホール 小ホール 2,492席 433席	オーケストラピット	・公共施工
7	神奈川芸術劇場KAAT	2011	神奈川県	神奈川芸術文化財団	ホール 大スタジオ 1,262席 224席	舞台（ホール）：後舞台 オーケストラピット	・市街地再開発事業
8	横須賀芸術劇場	1994	横須賀市	横須賀芸術文化財団	大劇場 小劇場 1,810席 574席	舞台（大劇場）：3面 オーケストラピット	・市街地再開発事業
9	アクトシティ浜松	1994	浜松市	浜松市文化振興財団	大ホール 中ホール 2,336席 1,030席	舞台（大ホール）：4面 オーケストラピット、仮設本花道、 回り舞台	・再開発事業
10	愛知県芸術劇場	1992	愛知県	愛知県文化振興事業団	大ホール コンサートホール 小ホール 2,500席 1,800席 330席	舞台（大ホール）：3.5面 オーケストラピット、仮設本花道 回り舞台	・公共施工
11	滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール	1998	滋賀県	びわ湖芸術文化財団	大ホール 中ホール 小ホール 1,848席 804席 323席	舞台（大ホール）：4面 オーケストラピット 回り舞台	・公共施工
12	兵庫県立芸術文化センター	2005	兵庫県	兵庫県芸術文化協会	大ホール 中ホール 小ホール 2,001席 800席 417席	舞台（大ホール）：4面 オーケストラピット	・公共施工
13	博多座	1999	福岡市	株式会社博多座	劇場 1,490席	オーケストラピット、仮設本花道、 回り舞台	・市街地再開発事業
14	北九州芸術劇場	2003	北九州市	北九州市芸術文化振興財団	大ホール 中劇場 小劇場 1,269席 700席 216席	オーケストラピット、仮設本花道	・市街地再開発事業
15	新国立劇場	1997	国	新国立劇場運営財団	オペラ劇場 中劇場 小劇場 1,814席 1,038席 358席	舞台（オペラ劇場・中劇場）：4面 オーケストラピット 回り舞台	・公共施工